

平成 25 年度の業務について

二ツ寺 政友

情報社会基盤研究センター

概要

平成 25 年度の業務について報告します。これまでの業務報告集ではある一つの題目について記すことが多かったのですが、昨年度を振り返る意味も込めて、今回は全体的な記載の形を採ります。

1 センター内での通常業務（通年）

輪番制によるユーザ窓口受け付け対応、各ユーザの手元に配布する端末（シンクライアント、主に教員向けの Mac mini、貸出用ノート PC など）やいくつかのシステムの管理・運営を行いました。より省力化、効率化を図ること、思考停止せずに着々と業務を進める力を強めることの必要性を痛感しています。また、私たちの JAIST 学内での役目をユーザに広報していく努力の必要性も同じく痛感しています。

2 平成 25 年度東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修（開講期間は 10 月 30 日～11 月 1 日）

JAIST がホストとなって情報系の内容で開講され、私も受講しました。研修の中で業務上関係の深い教員による講義を聞きました。私たちの業務は各研究室の研究内容に即した業務では無いため、各学生、教員、研究者について結局のところどんな研究をしているかを知る機会は少ないです。今回はとても良い機会でした。また、CAVE のデモンストレーションは他機関からの各受講者の皆様にも好評だったのではないかと思います。

3 SC13（主に 11 月）

SC は HPC（High Performance Computing）とその計算機の稼働に必要な各分野の技術・製品等に関する学術発表や各社・各研究機関の展示等が行われる国際会議で、毎年 11 月にアメリカ合衆国内で開かれています。情報社会基盤研究センターではこの SC に JAIST ブースを出展しています。SC13 はコロラド州・デンバーで開催され（<http://sc13.supercomputing.org/>）、私もブースの一員として参加しました。SC14 はレイジアナ州ニューオーリンズで開催されます（<http://sc14.supercomputing.org/>）。

4 知識創造支援システム 電算室演習用 PC の構成更新（主に年明け以降～）

2014 年 4 月初旬の Microsoft による Windows XP サポート終了に伴い、知識科学研究科 3 階電算室内にある演習室に設置された演習用 PC（講師用 2 席、受講者用 60 席；OS は Windows XP）の構成を更新しました。これまでのスタンドアロン PC（PC イメージのひな形を別の同型機で作成し、Norton Ghost などを使った仕組みで集中管理）のスタイルから、OS に Windows Thin PC を採用した、言わば「PC の形をしたシンクライアント」へと自前で変身させ、延命を果たしました。ハードウェア的な変更点は、シリアルケーブルで接続されていたデバイスが USB-シリアル変換ケーブル経由に変わった点のみです。File Based Write Filter をインス

ツールして書き込み保護をかけ、VMware Horizon View Client をインストールして、全学向け Windows 仮想デスクトップ、および知識・演習用 PC 後継の Windows 仮想デスクトップにログオンして使うスタイルになっています。

今回の更新により、端末監視・管理の観点からは多くの機能を失ってしまいました。技術力、応用力を上げねばと強く感じました。一方で、学生が演習室から離れ自席に戻った後などでも、演習用 PC でログオンしていた時と同じ Windows 仮想デスクトップを使い続けられるようになりましたので、ユーザから見た使い勝手の向上は図れたと考えています。

5 電子掲示板システムの更新（主に年明け以降～）

演習用 PC と同じく、Windows XP サポート終了に伴い、学内 3 ヶ所に設置したプラズマディスプレイに表示させていた電子掲示板システムを更新し、アイ・オー・データ機器の「デジサインキューブ」というシステムを使い始めました。本稿執筆時点では静止画の掲示（JPEG ファイル）だけでなく MP4 ファイルの動画も投稿されるようになり、軌道に乗ってきたのではとうれしく思っています。

6 技術サービス部員としての、地元行事や学内行事への参画（主に秋）

JAIST の地元能美市で開催される行事や、JAIST フェスティバルなどで技術サービス部として科学系の企画を行うにあたり、出張などと重ならない場合には要員として参加しています。現状では補助的な要素が強いです。情報系の技術職員である私からもいつか出し物を提案・実行できたらと常々思っています。

おわりに

平成 25 年度の業務について全般的に、ほぼ時系列に沿って記載しました。困難なことや悩ましいことも伴いますが、新しい物、新しい仕組みを作り上げ各ユーザに使ってもらうことは、素直にうれしいです。こういったことが実現できて良かった、という内容の数が、今後改善、解決することが望まれる、という内容の数を上回るようにするべく、JAIST 内外の方達のお役に立ちながら自身も成長して行きたいです。皆様今後ともどうぞよろしくお願いいたします。